第6回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委員会会議録

1　日時

平成29年2月24日(金)　午前10時　開会　　午前11時45分　閉会

2　場所

岡崎市役所　東庁舎7階　701号室

3　委員

出席者　清水裕之、榊原悟、柏木典子、団野美由紀、柴田剛太郎
渡辺傳次郎、　梶田美香、青木日奈子

欠席者　仲村悠希、山田高広

4　事務局

文化芸術部　部長　石川眞澄、次長　野田元陽、
文化総務課　主任主査　梅澤秀一、主査　鈴木みどり

5　傍聴人

なし

6　議題

(1)第2次岡崎市文化振興推進計画　パブリックコメントの実施結果について
(2)第2次岡崎市文化振興推進計画　進捗管理について

7　議題要旨

事務局　今回で任期期間中、最後の会議となる予定ですが、細かいところまで御議論いただき、概ね固まってきました。計画ができたから終わりではなく、これから10年間、これをバイブルに進めていきたいと考えます。

議題(1)　第2次岡崎市文化振興推進計画　パブリックコメントの実施結果について

委　員　パブリックコメントで、良い意見をいただいた。高齢者の生き甲斐につながる話は意識していなかったことではないが、明記していくのはよいと思う。

委　員　基本方針1－2－(2)は、文化芸術そのものを専門にやっていく子どもたち

を育成していこうというものか、生涯学習などに幅広く文化を活用していこうということか、確認したい。【計画書P29】

事務局　基本的には両方の意味を含みます。どちらかというと専門にやっていく子どもたちを育成する意味と考えておりますが、策定の段階では、明確に区分けしているわけではありません。運用の中で生かしていきたい。

委　員　地図の部分で、「中岡崎駅」がない。追記したらどうか。【計画書P69・70】

委　員　「中央図書館」はあるが「地域交流センター」がない。【計画書P69・70】

事務局　この地図にどこまで掲載するかという観点ですが、地域交流センターは、（文化的な利用があることは認識していますが）主として文化施設という位置づけではないので、今回は地図から外させていただいています。

委　員　旧額田郡公会堂及物産陳列所は、今は入館できないが、今後は入れるようになるのか。【計画書P66】

事務局　今後どのように活用するか、庁内検討会を開催しているところ。重要文化財であり、耐震の問題もある。耐震補強をして市民に利用してもらえるようにしようと考えている。

委　員　同施設の施設情報については、「検討中」など、現状を記載すべき。

委　員　旧本多邸が入っていないのは、理由があるのか。【計画書P65】

事務局　位置図に配置されている施設については、施設情報も記載させていただきます。

委　員　学習プラザのホールはどんな位置づけか。

事務局　同施設については、市民にも供するが、主に教職員のための研修施設となっている。舞台もありますが、本計画では対象から除いています。

委　員　御意見が出尽くしたようですが、さらに気づいた点があれば、来週中までに事務局へ。

事務局　計画書の要点を、より伝わりやすくする目的で、概要版を作成しました。計画書と合わせ、御意見等お願いします。

委　員　重点プラン1の記載の中に、「創造スタッフ（仮称）」という表現があるが、わかりにくいのではないか。

委　員　「創造スタッフ」という名前は確かにわかりにくい。でも「アーティスト」と言ってしまうと、一緒に働く（スタッフ）という感じがなくなってしまうので、これでいいと思っている。今の段階では仮称でよいと思う。特権的な人ではなく、市民にサービスをする人たちである。
　ほかにもいい表現があれば教えてください。

委　員　その理由もわかります。承知しました。
（他市の事例ですが）、アーティスト意識のままいることで、問題となったケースもありましたので、その通りだと感じます。

事務局　少しでも「創造スタッフ」という言葉が伝わりやすくするために、「美術や舞台芸術などの」から始まる、前の文も合わせて太字にさせていただき、イメージをつかんでいただくという修正をさせていただきたい。

委　員　概要版を見ていると、いいものになったなと感じた。早く行動を起こしたくなりますね。
　先ほども意見を言いましたが、基本方針1－2－（1）は、専門的な人材を育成し、基本方針1－2－（2）は、広く普及させるという意味で理解している。
　もう少し後者の言葉をかえると、区別が明確になるのでは。

委　員　基本方針1－2－（2）の方を、「文化を享受・創造する次世代の人材の育成」という風に「享受」を使うなどどうか。

委　員　あまり専門用語を使わない方がよい。

委　員　「創造する」を「つくる」と平仮名表記というのも考えられる。

委　員　基本方針1－2－（1）については、「人材」で、（2）には「市民」とするのはどうか。

委　員　いろんな御意見が出た中で、事務局でもう一度考えて、修正を検討いただきたい。

委　員　「享受」というのは、堅苦しく感じるかもしれないが、味わい楽しむことという意味合いもあるので、幅を広げるという意味で、良い言葉だと思う。

議題(2)　第2次岡崎市文化振興推進計画　進捗管理について

委　員　計画書の第7章を具体的にどのようにやるかということ。やってみないとわらないと思います。

評価が「C」になったらすぐやめるということではなく、改善をするということで理解している。

事務局　評価が低くなった場合、その評価になった理由や背景があるので、そこを検討して改善したい。「低い評価＝事業の廃止」に直結しないように注意して運用する。

委　員　評価項目のようなものはあるか。

事務局　全庁的に動いている事務事業評価システムの項目を利用できるものについては、利用する。そればかりに偏ると問題が出る事業もあるので、それ以外の事業については合議による評価を考えている。

委　員　量的評価と質的評価の両面が必要だと思う。そのあたりが充実するとよい。

委　員　ミッションと事業ごとに目標をつくって、みんながそれに沿って判断できるとよい。

事務局　市民意識調査の結果の中で、市全体の中でも文化については下の方。安全安心、子どもの育成、防災対策などが上位。こうしたニーズに応じて、予算の割りふりも行われる。

現状では、文化については、6割の方が満足し、今後の重要性については低い。この結果をどのように分析するかという議論もあるが、もう十分だからしなくてよいという話と、文化的な施策よりも防災防犯の方が大事だというニーズ

の表れという話になると思います。

ともあれ、これまでこうした評価の仕方を行ってこなかったので、まずは、評価の仕組みづくりを行っていきたいという意図がある。

委　員　例えば、アートのチカラで福祉に効果があるなど、単独では完結しない評価ができないと、真実を捉えられないかもしれない。アーティストの側の意識改革も必要である。

事務局　ＰＤＣＡを行うが、すぐに予算に反映させることは難しい。本計画の評価スケジュールでは、次年度の予算編成の時期に間に合わない。そこで、7月頃に各課で振り返っていただいて、次年度の予算に反映していただくよう、事務局として働きかけをしていきます。

委　員　大学の研究で、愛知県内の人口の中心がどこに動いているかというのを、豊田･岡崎･安城･刈谷など都市間で分析するということを行った。都市間競争に打ち勝つためには、公共施設がどこにあるかという点は重要なこと。

また、文化施設については、「古い施設の方が、人を引き付ける」という結果が出ている。図書館など通常は新しい施設の方が人気があるのだが興味深い結果。古い文化施設が頑張っているということもあるか。

評価のＰＤＣＡについては、やってみながら工夫しましょう。

事務局　ありがとうございました。本日の御意見をもとに、一部計画書等を修正します。また、3月下旬を目処に計画書等を完成し、郵送します。

なお、本委員会委員の皆様の任期は、3月 31 日を持ちまして満了となり、今回で会議開催は最後を予定しています。昨年度より長期間にわたり、御議論いただきまして、誠にありがとうございました。

午前 11 時 45 分　閉会